



災害に備える。

東日本大震災から間もなく2年が経過します。災害による犠牲や被害を最小限に抑えるためには、災害への備えが何よりも必要です。

大規模災害が発生した場合、守らなければならないものは何か。それは、自分自身と家族の「命」です。災害はいつ、どこで発生するか分かりません。「命」を守るためにも、災害に備え、冷静な対応ができるようにしておきましょう。

普段から 備える

備え① 備蓄品を用意する

大規模地震が発生すると、電
気やガス、水道などのライフラ
インがストップするほか、外部
からの支援が届かなくなり、物
資が不足するなどの事態が発生
します。

最悪の事態を想定して、各家
庭でも食料や飲料水などを備え
ておきましょう。

家族全員の食料や飲料水は
3日分用意しておきましょう



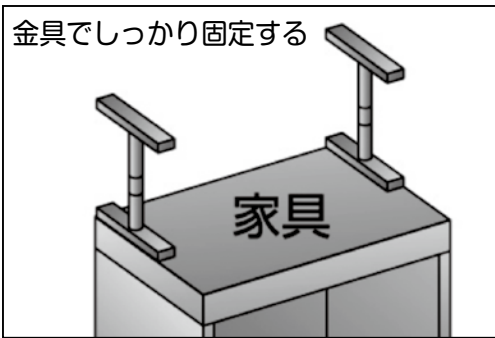
備え②

家具の転倒を防止する

大規模地震でけがをした人の
うち、家具の転倒が原因による
割合は、3〜5割を占めています。
家具の転倒は避難経路をふ
さいでしまい、「いざ」というと
きの行動が遅れる原因にもなり
ます。

室内での被害を防ぐために
も、転倒防止金具を利用して家
具を天井や壁に固定しましょう。

また、家具の上を棚代わりに
使用していると、置いた物が落
下して大変危険です。もう一度、
部屋の状況を確認し、地震に
対応できているか確認しましよ
う。



家具転倒防止金具の設置例

家族防災会議5つの約束

1. 災害発生時、家族が別の場所にいることを想定し、避難場所や集合場所、連絡方法などを決めておく
2. 電話などの通信手段が使えないときの対応を決めておく
3. 高齢者や乳幼児、病気の人がある家庭は、避難方法を決めておく
4. 避難で家を空ける場合、伝言や書き置きなどを張り付ける場所を決めておく
5. 災害発生時の家族の役割分担を決めておく



備え③ 家族で話し合う

災害は家族全員が一緒のとき
に発生するとは限りません。

「仕事をしているときや授業
中に災害が発生したら」「帰宅
途中に災害が発生して、帰れな
くなったら」など、さまざまな
ケースが想定されます。

災害発生直後は混乱が予想さ
れるほか、家族の安否確認も時
間が掛かることがあります。

「もしものとき」に備えて、
避難場所や集合場所、安否の確
認方法などを家族で話し合い、

決めておきましょう。

市では、毎年9月の第1日曜
日を「家族防災会議の日」と定
めました。災害発生時に家族が
離れていても、安否の確認方法
などを事前に話し合い、情報を
共有することなどを目的として
います。年に1回は、家族防災
会議を開いて「もしものとき」
に備えてください。

なお、「震災時チエックシ
ー」を防災安全課で配布してい
ますので、家族防災会議の参考
にしてください（市ホームページ
よりダウンロード可）。

備え④ 安否確認の方法を覚える

災害発生時は、固定電話や携
帯電話が使えない、もしくはつ
ながりにくくなり、家族や親戚
の安否確認に時間が掛かること
が考えられます。

このような場合、NTTの
災害用伝言ダイヤル「1717」
や、携帯電話各社が実施してい
る災害用伝言板サービスを利用
することも有効な手段です。

電話がつかないときのた
めに、家族全員が各種伝言サ
ービスの利用方法を覚え、使える
ようにしてください。